

〔様式 1〕

事務事業評価表

1～11までは、担当課による評価

記入年月日				
平成15年度	事業コード	11310	電話	042-769-8355
担当部課名	保健福祉部	障害福祉	課	
事務事業名	福祉バス提供事業			

1 総合計画における位置づけ

政策名	第1章	安心して生活できる福祉社会をつくれます	事業開始年度
基本施策名	第3節	障害者の自立支援と社会参加	63以前年度
施策名	第1施策	自立した生活を実現するための環境づくり	

2 実施根拠及び関連法令等

相模原市福祉バス提供事業実施要綱

3 事務の区分

自治事務	4 経費の区分	5 事務事業の分類	6 受益者負担
	その他の経費	市単独事業	あり

7 事業概要

(1)事業の目的...何をどのように(どのような状態に)したいのか		(2)対象(誰、何)	
市内に居住する障害者等の福祉の向上を目的として設立されている団体が、その目的を遂行するために実施する視察・研修及び会員相互の連携による自立心の向上を図るための事業にバスを提供することにより、団体の経済負担の軽減を図り、会員の社会参加を促進する。		福祉団体の会員、家族、介助者	
		対象数	18団体
(3)平成14年度事業の内容...市が実際に行った事業の内容			
障害者団体等が主催する研修等の事業に対し、1回につき2日間を上限にバスを提供した。 <提供団体数> 17団体 <提供台数> 日帰り36台、宿泊14台 福祉バス提供事業は、バスを提供するのみであるため、その他事業を行う上で必要となる経費(宿泊費、通行料等)は、各団体の負担となる。			
(4)個別計画の概要		概要	
計画名	相模原市障害者福祉計画	障害者を主体とした施策を総合的に推進し、各種サービスを体系的に提供する。実施計画(前期H10～14、中期H15～18、後期H19～22) 障害者団体等への支援	
計画年次	10年度～22年度		

8 評価指標...事業の目的達成度を計るための指標

				15,16年度は目標値				
	指標名	指標式	指標設定の意図	指標の推移(年度)				
成果指標	継続状況(%)	継続団体数/団体数(%)	視察・研修等の継続状況により、福祉バスの必要性をみる	12	13	14	15	16
				100	100	100	100	100
活動指標	利用状況(%)	利用団体数/団体数(%)	利用団体への対応状況をみる					
				94	94	94	100	100

9 事業費等の年度別状況

〔金額単位：千円〕

		平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
		決算	決算	決算	予算	予算(見込み)
事業費	決算(予算)額	7,182	6,156	5,921	6,720	6,720
	人員・時間数	75H	75H	75H	75H	75H
	人件費	312	312	312	312	312
	その他経費					
	合計	7,494	6,468	6,233	7,032	7,032
特定財源						
対象数		17	17	17	17	17
対象の単位あたり経費		440.8	380.5	366.6	413.6	413.6

10 個別評価

(1)達成度 評価 A ▼	A：達成している	チェック項目	・成果指標の達成度 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	B：一部達成していない		・活動指標の達成度 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	C：達成していない		・事業目標の達成度 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
		説明	障害者団体にとって移動する際の交通手段が大きな問題となるが、リフト付バス等を提供することによって、経済負担だけでなく介助者の労力軽減にもなり、十分目標を達成している。
(2)必要性 評価 A ▼	A：適応している	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・市民や社会のニーズにかなっている
	B：一部適応していない		<input type="checkbox"/> ・状況の変化(対象や内容)に対応している
	C：適応していない		<input type="checkbox"/> ・当初設定した事業目的が達成されていない
		説明	<input type="checkbox"/> ・国、県、民間、市民との役割分担から見、市が事業を行う必要がある
		説明	障害者、障害者団体の社会参加、研修への参加等のニーズに適応している。
(3)有効性 評価 A ▼	A：有効である	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・上位の施策、計画目的達成のために有効である
	B：一部有効でない		<input type="checkbox"/> ・期待された成果が得られている
	C：有効ではない		
		説明	福祉バスを提供することにより、各団体が研修旅行等を行うことは、障害者同士のコミュニケーション及び社会参加の機会を広げることにもつながり、有効である。
(4)効率性 評価 A ▼	A：優れている	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・予算や人員に見合った効果が得られている
	B：一部改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他市と比べてコストや効率性が優れている
	C：改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他の類似事例と比べてコストや効率性が優れている
		説明	<input type="checkbox"/> ・同一対象者に対して同種のサービスが重複していない
		説明	バス賃借料、提供台数の精査に努めており、効率的に行われている。
(5)公平性 評価 A ▼	A：公平である	チェック項目	<input type="checkbox"/> ・対象者と非対象者との不公平・不均衡は、妥当な範囲である
	B：一部公平でない		<input type="checkbox"/> ・受益者の費用負担は適正である
	C：公平でない		<input checked="" type="checkbox"/> ・対象者の設定は適切である(年齢や所得等を考慮している)
		説明	福祉バスの提供により多くの障害者の社会参加が図られ、健常者との公平性が保たれる。
成果向上の余地		事業費削減のために取り得る手段と削減額	
<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	説明： 障害者団体との細かな事前調整により、効率的な予算執行、成果向上の余地がある。	手段	特になし
		削減額	千円

11 総合評価

評価	AAA ▼	他自治体の類似事業との比較 神奈川県福祉バス「ともじび号」、横浜市福祉バス「あおぞら」など本市と同様な制度を実施している自治体は多い。
今後の進め方		
<input checked="" type="checkbox"/>	継続	総合評価に関する説明
<input type="checkbox"/>	見直し	障害者、障害者団体の経済負担、介助者の労力軽減、幅広い社会参加への支援等十分目標を達成している。
<input type="checkbox"/>	廃止	
<input type="checkbox"/>	完了・廃止済	

12 二次評価コメント

--